

立命館宇治中学校・高等学校を訪問しました

令和6年11月28日(木)

11月28日(木)に京都の私立立命館宇治中学校・高等学校を訪問しました。目的は、中高一貫校における探究活動の様子と国際バカロレア導入校の先進的な取組の実態を見学し、それらを次年度から始まる本校の取組に生かすことです。

訪問校からは、同校校長の越智規子先生、高校教頭の西原文人先生、そして数学教員でキャリア教育部長で全国的にも有名な同校の探究活動を牽引する酒井淳平先生に説明していただきました。

本校からは校長の川手先生、教頭の金澤、準備委員会主担当の伊藤泰之先生、同じく高羽先生、国際探究科主任の大谷先生、国際バカロレア主任の丹羽先生、準備委員会の伊木先生、杉浦先生、栗本先生、探究委員会の山田真人先生、そしてあいちの学び推進課指導主事の武田先生が参加しました。

最初に、探究活動を中心に事前にお伝えしてあった質問について、酒井先生からお答えいただきました。その後、実際に総合的な探究の時間における「問いのたて方」にフォーカスした、授業を参観しました。

ここでは、各担当の先生方は普段の授業担当でないクラスを担当しているケースもありました。この探究の時間で対象の生徒に初めて授業をする先生もいたのです。それでも、各先生方はご自身の専門教科に関連付けながら、探究的な学びに重要なポイントである「問いのたて方」について説明してみえました。後で、ここが先生方の教科指導力の見せ所だという説明を受けました。また、担任会で事前にしっかり話し合いをしているという説明もありました。

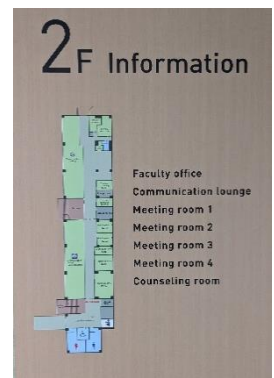
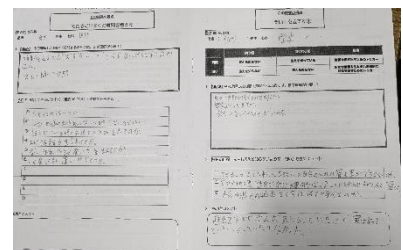
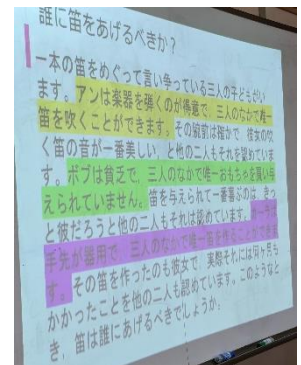
その後、同校の国際バカロレアにおける施設や取組などの質問に答えていただいた後、校内の施設見学に回りました。

図書館は、授業後に生徒が自主学習できるように蔵書が大変充実していました。また、立命館大学の図書館と連携しており、同大学からも貸し出しが可能になるシステムを導入していました。

2009年度に認定された国際バカロレア(IB)については、そのための専門の校舎があり、対象の生徒は其中で英語漬けの生活を送っている様子でした。ネイティブと日本人の先生2名が担任をするデュアル担任制をとっていること、必修科目も英語で授業していることなどが説明されました。

公立と違う私学ならではの特徴もありましたが、多くの海外大学への進学を可能にしているのは、先生方のたゆまぬ努力のたまものであると感じました。

これで、昨年度の京都市立堀川高校、先週の京都市立西京高校、そして今回の立命館宇治中学校・高等学校と、本校が目標とする探究的な取組を進めている関西のトップ校3校の様子が確認できました。あとは、来年度から始まる本校の取組にどう生かしていくかが大切です。参加者はそれぞれ身が引き締まる



思いを胸に、京都を後にしました。

これからも津島高校は、先進校の取組を参考にしながら、次年度の準備を進めてまいります。ご期待ください。

教頭 金澤 学



寛	異なる価値観や文化を持つ相手を尊重する人	Open-minded
省	自己の行動を客観的に振り返り、教訓化できる人	Reflective
健	豊かな情操と体力を養い、心身を健全に保つ人	Balanced
話	日本語と英語でコミュニケーションできる人	Communicators
究	学ぶ喜びを知り、知的好奇心にあふれた人	Inquirers
考	論理的、批判的、創造的な思考力を身につけた人	Thinkers
仁	相手を思いやり、柔軟正しい態度を取る人	Caring
知	幅広い活書を通じて豊富な知識を身につけた人	Knowledgeable
挑	困難な課題に対し、勇気を持って挑戦する人	Risk-takers
義	正義感にあふれ、責任ある行動を取る人	Principled